# 「千葉教育」を活かして

匝瑳市立八日市場小学校校長　松倉（まつくら）　孝夫（たかお）

「千葉教育」は、長期研修生を目指していたころ、国や県の教育情勢を知るために読み、大変勉強になったことを覚えている。しかし、学校現場の業務の多忙から、職員が読む機会をつくれないという現状もある。

そこで、本校では、私が目次を見て、内容に関係する職員の名前を書いた付箋を貼り、供覧するようにしている。具体的には、「現代の教育事情」は、教育課程の実施や選考等の参考となるため、教務主任や長期研修希望者に紹介している。「私の教師道」は、いろいろな層の教員が対象者となる記事が記載されているため、若年層や中堅層、ベテラン層の教員など、多くの教員に紹介している。昨年度までの「ケーススタディ」は、学校運営を適切に進める上で、私自身も大いに参考にさせていただき、教頭にも積極的に紹介していた。そして、本校職員には、「千葉教育」に触発され、関連する書籍を読んだり、インターネットで調べたりすることを期待している。

私が楽しみにしている内容がもう一つある。それは「千葉歴史の散歩道」である。休日、紹介されているところに実際に行って教養を深めるとともに、心身のリフレッシュを図るために活用している。その他にも、いろいろな内容の掲載されている「千葉教育」を、是非、皆さんも、有効に活用してみてはいかがでしょうか。

# 長期研修を終えて

佐倉市立青菅小学校教諭　合田（ごうだ）　明生（あきお）

「長期研修は自分には関係がない。」と思う教員人生をこれまで歩んできた。その思いが変わったきっかけは、自分が長年教師の勘で実践をしていることに気付き、「もう一度、学び直したい」と強く思ったからだ。長期研修が始まると、講義の中で教授から「社会科ってなぜ必要なのですか？」「歴史を教える意味って何ですか？」という現場では考えもしない問いを投げかけられるなど、毎日刺激的な日々を過ごすことができた。学びを深めて９月には所属校に戻り、検証授業を２か月間行った。久しぶりに子供たちの前に立った時は、授業ができる喜びに胸がいっぱいだった。私は政治参加をしようとする児童の育成を目指した。悩んだこともあったが、県総合教育センターの先生方にたくさんアドバイスをいただきながら成果と課題をまとめ、研究報告書を無事に提出することができた。また、長期研修を通して、様々な人々と出会った。社会科の長期研修生の皆さんとは、毎日、社会科研究を熱く行ったり、お互いの地域巡検を行ったりして知見を深めることができた。研究発表会では教科・領域を超え、長期研修生の皆さんや大学生の方とたくさん意見を交わすことができた。長期研修を通して得た人とのつながりを大切にし、大学で学んだことや検証授業の成果を子供たちや先生方へ還元していけるよう、これからも努力を積み重ねていきたい。